

今回で最後となる**「富山のくすりフェア2024」2月29日より3月1日 丸の内KITTEにて開催
「富山県の薬」の昔と今を伝える「富山くすりフェア実行委員会」が廃止
(一社)日本置き薬協会**

富山県薬業連合会をはじめ薬剤師会、医薬品卸業協同組合、医薬品小売商業組合、医薬品登録販売者協会の県内薬業団体と富山県並びに富山市、高岡市、射水市、滑川市、上市町、立山町の薬業関係市町で組織する「富山くすりフェア実行委員会」(会長・中井敏郎富山薬連会長)主催の「富山くすりフェア2024」が2月29日、3月1日の両日、東京駅丸の内口前JPタワー・KITTE地下1階 東京シティアイ・パフォーマンスゾーンで開催された。東京での開催は平成30年2月以来6年振りとなる。

富山のくすりの歴史や薬都とやまの文化などを紹介する売薬古道具の展示、売薬歴史館・富山観光名所の紹介、「富山のくすり」産業の紹介、等に加え、健康茶やドリンクなどの無料配布、配置薬や富山の物産品・逸品、シェアコスメ等の販売、身体のバランス測定ができるセルフコーナーが設けられた他、入浴剤をつくるワークショップやガラポン抽選会などが行われた。

本フェア開催の一週間前に実行委員会が開催され、5年度限りで実行委員会を廃止してくすりフェア事業開催を終了する件、及び東京でのフェア開催とその実施内容、予算案(収支600万円)が審議決定された。

富山くすりフェアは平成5年度から実施され、当初は県外の主要都市で開催していたが、同年からは県外の観光客を対象に「越中おわら風の盆」の期間中の県内開催にシフトし、その後、北陸新幹線の開業に合わせ、同26年からは東京駅周辺、近年は県外の配置協議会と連携し、ショッピングセンターやイベント会場等でも開催してきた。しかし、県内の配置従事者の急速な減少などを背景に開催の是非が幾度も議論され、中井会長は「県や関係市町が予算を組んで支援して頂いている事を考えると実のある取り組み、実のあるお金の使い方をしなくてはならない」とし、「結果が出ておらず、それに対して関心も薄く問題視されていないのが問題。このままでは将来性がないと思ひ実行委員会形式での開催を止める決断に至った」とした。

(以上、家庭薬新聞 2月25日号、3月5日号より抜粋しました)



ゆるキャラの「くすりん」がお出迎え

会場内では展示、販売されていた

東京都が既存配置薬販売業者へ、50ml以上のドリンク剤配置を認める

日立製作所提供の長寿テレビ番組「世界 不思議発見」が中止となったが、薬業界では「くすり 不思議発見」?と思われる発表が3月29日に東京都薬務課よりあり、4月1日より実施された。

既存配置販売業者における配置販売品目については、旧薬事法第30条第1項の規定に基づき各都道府県が取扱品目を指定しているが、東京都は「内用液剤である滋養強壯剤(いわゆるドリンク剤)のうち、その内容量が50mlを超える品目または容器がガラスアンプルの品目」を除くとしていた。今回これが除去され他の道府県と同じとなった。該当既存配置業者数は4年末で108社、同従事者数は148人。薬務課の定期的な見直し審査のなかで、現状にそぐわないとし処置したとのことである。